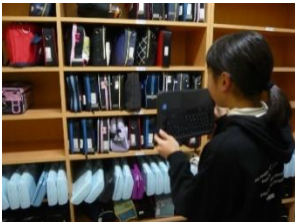



令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|------------|----|------|--------|------|
| 学校名 | 三原市立田野浦小学校 | 校長 | 沖 章夫 | 生徒指導主事 | 東 英治 |
|-----|------------|----|------|--------|------|

| 取組事例名 | | 『係活動の充実』 | | | |
|--|---|----------|--|-------|---|
| 取組における育てたい資質・能力 | | | | | |
| 人間関係形成 | | 社会参画 | | 自己実現 | |
| 課題発見・解決力 | 3 | 自主性 | 1 | 自己有用感 | 2 |
| 取組のねらい | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 学級生活をよりよくするための課題を見出し、解決するために話し合い、役割を分担して協力して実践する。(3・4年生の取組を中心に) | | | | | |
| 取組の具体的内容 | | | 取組の創意工夫 『キーワード 自主性と肯定的評価』 | | |
| <p>1 係活動の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> 係活動について、学級にとってこんな係があると学校生活が楽しくなるという視点で話し合いを行い、全員で役割を分担する。 係活動の充実と協力した活動を目指して、各係の人数を複数にし、活動時間を確保する。 <p>2 ICT 機器の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> クロームブックを活用し、係のメンバーや目標、活動内容や活動予定を作成し、情報発信する。 係活動表を教室内に掲示する。 児童が ICT 機器を使えるように指導する。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 学級生活をよりよくするという視点で、課題解決のための方策を考えさせる。 係の活動内容により、人数を調整して決定する。 活動内容について見通しをもちにくい係については、対話から発想を広げられるようにする。 ICT 機器を活用すると活動が充実する場合は、使用を許可する。また、係のフォルダを共有ドライブに作成し、教師が内容を確認し助言できるようにする。 児童に自己存在感を与え、自己有用感を高めさせることができるような評価を教師が行う。 | | |
|  <p>【整頓できている様子を記録】</p>  <p>【朝の会の時間に発表】</p> | | | | | |
| <p>3 活動内容の確認と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の会や帰りの会に係からの連絡の時間を設定し、活動時間を保障する。 主体的に活動している児童の姿を具体的に評価し、学級全体に広げる。 | | | | | |
| 取組の成果と課題 | | | | | |
| <p>○ICT 機器を活用することで、活動の幅が広がり、主体的に児童が活動することができた。また、係活動の報告内容を協力して考えたり、分かりやすく伝える工夫をしたりする姿も増えてきた。</p> <p>○担任が、児童の主体的な活動を肯定的に評価することで、児童の貢献意欲（人の役に立っているという気持ち）を高めることができた。</p> <p>●取組がマンネリ化することで意欲が低下した係があった。児童が、自分たちの学級生活をよりよくしていくために、課題を見つける時間を意図的に作り、生活を見つめ直して課題を見つけ、児童のアイデアを生かして解決する取組を継続して行う必要がある。</p> | | | | | |